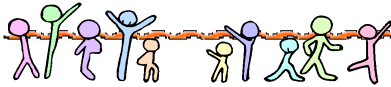


ぼうさい



発行 平成17年3月31日 第2号

NPO セーフティネット ぼうさい

〒948-0003

十日町市本町 6-3

連絡先(代表 尾身誠司)

電話 025-752-7353

FAX 025-752-7376

E-mail tbk119@jeans.ocn.ne.jp

まさかの「中越地震」

代表理事 尾身誠司

平成16年10月23日午後5時56分大地震を揺るがす大地震が起こった。死者46人、負傷者2991人、全壊家屋2751棟、半壊家屋9680棟という未曾有の大被害を受けた。

「NPOセーフティネット ぼうさい」設立し、五ヶ月足らずの出来事である。「まさかのまさか」が起こったのである。「近い将来十日町断層が動く危険がある。」と講演をし、地震に備えようかと説いていた矢先。皆がビックリ仰天した。

十日町地域に大地震が起こったときNPOとして、何ができて何をしようと準備中の我々にいろいろな試練を与えた。

私は地震を家で妻と被災した土曜日のこの時間どこの家庭でも夕食又は準備の時間だったと

思う。私は居間でテレビを見ており、妻は台所で夕食の準備でガスを使っていた。突然「ドーン」という縦揺れ続いて激しい横揺れに襲われた。築70年の古い家は壁土、ススが煙のように舞った。「これは大きいぞ」と瞬間に感じた。妻は火を消し、私と大黒柱にしがみつき揺れの収まるのを待った。一度は点灯した電灯も消え、真っ暗の中懐中電灯を頼りに外へ飛び出した。小さな揺れが続いたあと2度目の揺れ、月明かりの中我が家の様子を見た。常々「大地震が来たら私の家はつぶれるよ。」と話していたので、いつ倒れるかこの目に焼き付けておこうと思ったのである。しかし、持ちこたえてくれた。頑張っている様を見て頼もしくさえ思った。3度目の震度6強の揺れに襲われたときはこの世の終わりかと思った。更に激しく揺さぶれる我が

家、後ろで墓石の落下する音が「ドスン、ドスン」なんと不気味な音である。その時私は震源地でない。十日町ではない。」と直感した。なぜなら我が家が倒れなかったから。しかし、これはただ事ではない。空を見渡したが今の所火災は起こっていないようである。地域防災力の活動開始ある。



近所の安全確認はできた。2箇所に自主避難がされており、自主防災組織の活動がてきぱきと始まった。区長を中心に総務班、建設委員長を中心に安全確保と被害調査、消防団は安否確認と出火防止のためパトロール、避難所は1箇所と定め設置、女性部を中心に炊き出しの準備、午後7時30分に全員の安否確認、災害対策本部への報告は依頼待ちとした。歩行困難者の輸送を行い午後8時30分「ふるさと会館」前の広場にテントによる避難所に入った。さながら平成14年鉢地区で行われた「十日町市防災訓練」の再現であった。その後の対応についてもほぼ完璧と言っても過言ではないと思っている。まさに地域防災力が発揮された活動と評価したい。11月7日まで建築士会、建築組合の住宅被災調査に出て、外見上被害が目立たないが壁の

落下、亀裂、風呂場の損壊、基礎の亀裂等被害は甚大である。共通しているのは、地盤の悪い所、老朽建物に被害が顕著に認められ、震源に近い下条、中条地区に大きな被害が認められた。調査と同時に修復の相談を受けたが問題は経費である。建物だけでなく田畑の修復をするには何年やれるかわからないのに、どうしたらよいか途方にくれている姿に接し、生活の場を奪われた者の救済は切実な問題である。11月8日激震地川口町へ入った。駅前に入り軒並み倒壊している建物が目に飛び込んだ。阪神・淡路大震災の光景が浮かんだ。震度7という激震がいかにすごかったかというところが改めて思い知った。しかし、11月26日田麦山地区を尋ねることにより、更に認識を変える場面に出くわされた。ここで見た光景は違った。戸数180戸くら

い高台のゆるい傾斜地で、十日町の中条地区を思わせる所である。あちこちに倒壊家屋がありその中で、築4年の新築高床式木造3階建の住宅が坐屈しているのがある。当然耐震基準には適合し、十日町のどこへでも見受けられるモダンな住宅である。コンクリートの壁、土台には目立った損壊はなく、柱が抜け折れている。中には入れないが想像はつく。一見



外形上はあまり損壊していない住宅の中に入らしてもらった。基礎は耐力壁、中仕切りは三尺のドアが1箇所完璧な基礎である。震度7に耐えた基礎と感じ入った。居間の天井を指差し電灯の傘が揺れて穴を開けた跡だという。大きな穴が開いており揺れの強さに驚いた。その住人はこう証言した。「立ってられないなんてもんじやない。這いつくばって地球にしがみついた。」と。さて今回の地震は阪神・淡路大震災が都市型に対し中山間地型といわれ全国から注目されている。



新潟県の空白地域といわれる新潟平野、長岡周辺でないところに起こった「褶曲地形」による隠された活断層が動いたといわれている。地震のメカニズムは別の機会に譲るとし、今回の震度7を記録した川口町、特に激しかった田麦山地区は十日町市下条の裏山に位置し、今は廃村になったが「山の相川」から二子まで3キロメートル足らずで、遠足コースだ

ったという。下条地区に被害が大きかったのが裏付けられる。十日町中心地が震源だったらどうなっていたかと思うと背筋が寒くなる。私には被害想定を示すことはできないが、新築建物が坐屈するということから想像してもらいたい。今回の地震を教訓に「自分の命は自分で」「地域は地域で守る」ということがいかに大切かということが証明された。リホーム時耐震構造にしたおかげで壁の被害は微小であったり、家具の転倒防止をしたため壊れ物ほとんどなかった。「地震なんか十日町に来るわけがない」「来ても自分は大丈夫」「来たら来たとき」という考えを捨てて、行政を含め「備え」をする以外ないと思う。危機意識の欠如をなんとかしようという講話等をやってきたが、この地震で何万回の講話、講演より効果が発揮できた。自分たちで防災

に参加しましょう。まず地域コミュニティを生かし「自主防災組織」の設立です。その中から防災知識を学び、「命を守り、地域を守る」ことができます。新市誕生と共に「災害に強いまちづくり」が生まれることを願ってやみません。(平成17年1月1日十日町タイムス掲載)

新潟県中越地震から五ヶ月になろうとしていた3月20日、福岡、佐賀に震度6弱の地震が起こった。続々と生放送される映像からあのときのが脳裏を走り、日本はどうなるのだろうかと不安になったのは皆同じ思いだったと思う。いまだ余震に悩まされ避難生活をしている人たちのことを思うと身を切られる思いである。又も未知の断層が動いたという。更に注目する情報が発表された。東海・東南海・南海地震の前触れでないかというのである。過去の

歴史から大地震の前に全国所かまわず地震が発生するというのである。当然のごとく確認されている活断層の活動が心配され、十日町断層の30年以内に動く確立が1パーセントと発表されたのである。これは全国でも発生率が「やや高い」グループに属するという。ここであの恐ろしい地震を経験した私たちは何をしなければならぬのか。一時も早く自主防災組織を設立し「自分の命は自分で、家族は家族で、地域は地域で守る」防災に対し正しい知識を身につける。家具の転倒防止。家の耐震化。行政は震度7に対応した「地域防災計画」を作成する。自分たちでできること。行政が実施しなければならぬこと。両輪がうまく回って災害に対処できる。地震を止めることはできないが、被害を少なくすることはできるのである。

「NPOセーフティネット ぼ うさい」の紹介

一 目的

高度な技術と、豊富な経験を有する会員相互の協力により、防火、防災に関する幅広い分野で、防災講演及び防火講習会を通して、地域住民の生命、身体及び財産をあらゆる災害から減災すること。あわせて大災害発生の場合にボランティア活動のリーダーとして関係行政機関の協力をすること。災害に強い街づくりに貢献することを目的とする。

二 事業

① 町内、集落又は老人会等を単位に防災講演、講習会等を行い防災、防火の啓蒙活動

② 防災、防火器具用具の斡旋

③ 災害ボランティアのネットワークづくり

④ その他、簡易耐震診断などを計画しています。

三 会員・賛助会員

① この会の目的に賛同して入会した個人及び団体

正会員

入会金 一万円

年会費 一口五千元

一口以上

賛助会員

個人 一口二千元

一口以上

団体 一口一万円

一口以上

現在会員十二名です。

会員・賛助会員を募集しています。

研修会を開催します

テーマ

「検証新潟県中越地震」

主催 NPOセーフティ

ネット ぼうさい

講師 代表理事

尾身誠司

日時 平成十七年六月頃

予定しています

場所 十日町市学校町一

市民会館

火災による死者

六名(高齢者四名)

平成十六年

十日町管内の死者

二名

今年すでに一名

新築住宅等は平成十八年六月一日から火災報知器を設置しなければなりません。既存住宅については猶予期間について条例化する必要があり、十日町地域広域事務組合で検討しています。

編集後記

創刊号に続いての発行が地震の体験を書くことになろうとは夢にも思っていなかった。

防災意識の欠如から一転して、防災博士になった皆さんから正しい地震の知識を得て貰いたいと思います。